



# 標語・人権の詩

こころ

10月8日(土)に行われた広川町人権啓発・青少年育成推進大会。そこで発表された子どもたちの心の中は、とても温かく私たちに多くの事を届けてくれました。今回の特集では子どもたちの心の中を見てみましょう。

## 青少年健全育成標語入選作品紹介

小学生の部

【入選】

「だいじょうぶ？」ひとこえかける 思いやり

広小学校 5年 小川 心晴

【佳作】

おこるより いいとこたくさん みつけよう

南広小学校 3年 山口 日向子

見守り隊 いつもやさしい ちいきの目

南広小学校 4年 小原 大輝

いじめてる 貴方に一言「やめたげて」

津木小学校 6年 大江 優花

中学生の部

【入選】

止めようよ 見て見ぬふりは 同じ罪

耐久中学校 2年 山口 桃佳

【佳作】

あぶないよ ネットでつながる あくサイト

耐久中学校 1年 北山 美月

前向いて 笑顔で毎日 のりきろう

耐久中学校 1年 小池 叶海

あいさつで

地域の笑顔 広げよう  
津木中学校 3年 濃中 俊也



## こころ 人権の詩紹介

ごはん

耐久中学校 3年

滝川 楓

ごはんはあったかい  
お茶わんもあったかくなる。  
持った手もあったかくなる。  
そのまま  
心もあつたかくなったら  
いいな。

大丈夫?

南広小学校 6年

鈴川 海唯音

「大丈夫?」  
この言葉はすごい  
本当はつらいのに  
「大丈夫?」と聞かれると  
「うん」とうなづいてしまう  
「うん」と答えないと  
相手をもっと  
心配させてしまうからだ  
だけど私はこの言葉がすぎだ  
だれかにいわれると安心するから  
私も聞いてみよう  
友達がつらそうなら  
「大丈夫?」・・・と

一緒

広小学校 6年

畠中 優太

友達と一緒に遊んで  
一緒に笑って  
一緒によろこんで  
一緒に悲しむ  
時にはケンカし  
すぐなかなおり  
そんな友達と  
ずっと一緒にすごしたい

友達

津木小学校 5年

大崎 美湖

私が悲しい時、楽しい時  
友達がいつでも近くにいる  
悲しい時はそばにいてくれる  
楽しい時はみんなで笑う  
そんな友達に出逢えたコトが  
「うれしい」  
みんなも  
友達を大切にしてほしい  
悲しい時、くるしい時、  
友だちがきつと支えてくれる  
私は今、私のまわりにいる  
そんなすてきな友達を  
大切にしたい

天気

南広小学校 4年

川合 晶翔

楽しい時は晴れ  
悲しい時は雨  
まよっている時はくもり  
おこっている時はかみなり  
反こう期のお兄ちゃんは台風  
家にも色んな天気があるよ

うれしい

津木中学校 2年

畑中 陽理

うれしいこと  
毎日学校に行けること  
友達と話せること  
テニスができること  
笑えること  
元気でいれること  
日常があること  
生きていれること  
そんな当たり前が  
私はうれしい

心の中

広小学校 6年

西川 音彩

もういやだ  
外ではいつも笑ってる  
でも  
本当の心は暗やみの中  
友達のはげまし  
暗やみに光がさした  
心の中でも笑顔になれた

言葉

津木小学校 5年

奥田 祥太

「こんにちは」  
人は言葉をつかえる。  
「ありがとう」  
だからつうじあえるんだ。  
「さようなら」  
よし、明日もきつといい日。  
でもなぜ言葉があるのに  
あんなにきつおこるんだろう。  
「ごめんね」  
一言でかいけつできるのに



## 自然への感謝

津木中学校3年

中谷 清人

近年、地球温暖化等の人間が主な原因の環境問題をよく耳にするようになりました。そんな中、自然を守るために、僕達はいったい何が出来ると思いますか。僕は、まず自然を汚さないようにすることが出来ると思います。僕の住んでいる地区は、自然豊かで四季がくると虫が飛びます。しかし、虫を見に来る観光客が、道のそばのみぞにゴミを捨てていくことがあ

ります。単にゴミといっても種類はたくさんあります。お菓子の袋や空き缶、ペットボトル。そして、たばこ等様々なものが捨てられているのです。年に、一・二回あるゴミ拾いの時は、普段目を通さない場所も見るのでこのようなゴミをよく拾います。僕は、この時「自然にもっと感謝して、自然を大切にしたい。」と思いました。自然は、僕達に色々なものを与えてくれます。例えば、生物には欠かせない酸素や食べ物です。食べ物は、人間が作っている部分もありますが、自然が元になって作られているのが殆どです。他にも自然は、アイデアをくれたりもします。はすの葉から汚れが引く付き難くなる方法を見ついたり、魚の形からヒントを得て、丈夫で抵抗を小さくする方法を用いて車のボディの形を作ったりしています。このように僕達人間は、自然から数えきれないほどの恩恵を受けています。

ところで、皆さんはマイクロプラスチックという言葉を聞いたことがありますか。マイクロプラスチックとは、分解されないプラスチックが海等で粉々になったものです。このマイクロプラスチックは世界的課題と指摘され始めたほど重要な問題です。有害物質を吸着し、濃縮させる特徴を持っているそうです。それを魚が食べ、さらに大きな魚が食べ、そして人間が食べる。これによる悪影響が懸念されています。このマイクロプラスチックは、中国やインドネシア等のアジアの国々のゴミが潮の流れにのってやってくることで日本にたどり着きます。だから、日本近海では、他の国に比べてマイクロプラスチックの量が多いです。この状況を悪化させないためにも、日本ではゴミを出さないようにしなければなりません。その方法は、買い物の時にエコバッグを持っていき、出来るだけビニール袋を使わないようにすることなどが考えられます。

しかし、いくらマイクロプラスチック等の問題を防ごうとしても防ぎきれない部分もあります。それは、津波や洪水等の天災によっても運ばれることです。東日本大震災の時や鬼怒川の堤防決壊による洪水、紀伊半島豪雨が例に挙げられます。東日本大震災の時、津波で多くのものが流され、日、全く別の地域に流れついたという話を耳にしたことがある人もいないのではないのでしょうか。ですが、流されたうちの殆どが恐らく海の底に沈んでいるか、未だ海で浮遊しているかのどちらかでしょう。以前、テレビで海底にマネキン等の人工物が落ちていたのを見たことがあります。この時、自然の力はすさまじく恐ろしいものなんだなと感じました。最近の日本では、ゴミの処理で問題が起きています。原発事故により汚染された土壌の捨て場所、地震によって出た瓦礫、三十年以内に起こる確率が高いとされている南海トラフ巨大地震。この時も、大量のゴミが出てゴミの処理に困ると思います。しかし、例えばそのような状況になっても、自然を汚す行為をしてはなりません。それが、自然への最大の恩返しだと思おうから。

## 僕の弟

耐久中学校1年

久保田 弦龍

「剛生」これは僕の弟の名前だ。強く生きるといふ願いが込められている。僕と父、母で考えた名前だ。平成二十二年六月十九日、僕に弟ができた。早く病院に行き、弟に会いたいと思ったのに、なぜか何日たっても弟に会う事ができなかった。その頃弟は、NICUという所に入院していた。父も母も



大変だったらしい。僕は全くそんな事とは知らずに早く弟に会いたいと思っていた。一ヶ月近くたった頃、父が弟の写真を見せてくれた。僕は写真を見ておどろいた。たくさんのチューブが弟の口、鼻につながれていたからだ。後に母から聞いた話では分べんの時に、予期せぬトラブルがあり、弟の心音が下がって、脳に酸素が十分に行かなくなってしまうらしい。産まれた時は心臓は一分間に四回程しか動いていなかったそうだ。弟は母のお腹の中で、苦しい思いをしたのだ。また人間の生命力はすごいなと思った。何日かたって弟は退院してきたけど、一週間程たってまた入院してしまっ

まった。僕はすごく心配だった。これから弟はいつたいていどうなってしまうんだろうと、不安でいっぱいだった。退院してきた時、弟はとても元気だった。これで僕はやっと弟と遊んでいる姿は、とてもかわいかった。僕はこんな日が毎日つづくといいなと思った。弟

## 中学生の主張

久保田 弦龍

中谷 清人

には目標がある。それは僕、父母の願いでもある。上手に歩けるようになる事だ。弟はよく「兄ちゃん」とサツカーする。「テニスがしたい。」とか「みんなと一緒に歩きたい。」と言っている。

僕は弟とよくけんかをする。いつも、「兄ちゃん、兄ちゃん」とニコニコしながら話しかけてくれるのに、なぜかいつも気がついてからケンカになり、弟を泣かしてしまふ。かわいい大切な弟なのに。これからも弟の目標「上手に歩けるようになる。」にむかって家族みんなで仲よく剛生の夢に一步步近づけるようにがんばりたいと思う。